

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(生命理工医療科学先端研究特論)(医歯理工学先端研究特論)

記

1. 講 師 東北大学 副学長(共創戦略担当)・共創戦略センター長
教授(歯学研究科口腔システム補綴学分野)
佐々木 啓一 先生

2. 演 題 共創による歯学研究の社会実装

3. 日 時 2021 年1月21日(木)17:00~18:00

4. 場 所 Zoom によるオンライン講義

受講希望者は1月20日(水)までに、下記に連絡先まで問い合わせてください

5. 要 旨

私どもの歯学は実学の一分野であり、歯学研究の役割は、歯科医療・口腔保健の発展に寄与し、人びとの健康・QOL の向上に貢献することである。いろいろな学問領域の中でも出口に近く、工学、薬学、生命科学等、他領域からも注目されている。出口とは、言うまでもなく、新たな医薬品、医療技術・機器の開発そして臨床導入、すなわち社会実装である。もちろん全ての研究がこのような範疇に入るものではなく、新たな真理の解明に繋がる基礎研究も重要である。ただし基礎的な歯学研究においても、その多くは目的として骨再生なり、抗炎症なり、何らかの臨床効果を謳っており、その意味では実学であろう。

そうであるならば、歯学研究では、少なくともその後の展開を見据えて研究計画を立てることが必要ではないだろうか。しかし一般的にほとんどの研究者は、出口を目指したロードマップを聞かれると明確に答えられない。自身の研究の実現可能性、安全性、適用方法の妥当性、現実性といった開発の道筋に沿った検証ができていない。これは、従来、そのような視点での研究立案の仕方をしてこなかったこと、またロールモデルがあまりなかったことに起因している。

私もまた、全くの暗闇のなか手探りで開発・研究に取り組んできた。また今は東北大学の共創戦略担当の副学長として、領域を問わず、産官民のマルチステークホルダーとの共創による大学イノベーションに取り組んでいる。いずれもその道のりは、まだまだ途上ではあるが、私のこれまでの経験、知識を供覧し、皆様のこれからの研究に活かしていただければ幸いである。

摂食機能保存学分野 三浦 宏之
(連絡先:野崎 浩佑 k.nozaki.fpro@tmd.ac.jp)